

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200644		
法人名	医療法人 弘和会		
事業所名	グループホーム星の子		
所在地	岡山県倉敷市福田町古新田813-7		
自己評価作成日	平成24年7月6日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療機関が同敷地内にある為、医療との連携が取れている。 スタッフの配置が手厚いため、入居者の方の意見に沿った臨機応変な対応ができる。 グループホームを家庭と考え、家でしていた普通の生活に近づけるよう、家族から情報を頂き、実現できるように心掛けている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.in/33/index.php?action=kouhvu_detail_2011_022_kani=true&JivvosvoCd=3390200644-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>医師である法人代表の「この地区の人がこの地区で最期まで暮らせるように」との思いで、医院とデイサービスのあ る敷地内に、グループホームが新たに建てられた。掃除が行き届き、清潔感あふれる空間で、職員がゆったりと利用 者に接している。さりげなく笑顔で手を差し伸べる光景がたびたび見られ、利用者も安心して伸び伸びと暮らしてい る。開設から約1年が経過し、様々な試行錯誤の中で、基本理念に沿うべく、多くの改善がなされている。もっとも大き な変化は、食事やレクリエーションなどを決まった時間に一斉に行う方式から、利用者各人のそれまでの生活ベース を継続できるように舵を切り直したことだ。朝食は時間の幅を設け、自分の好きな時間に食べられるようにしたこと も、その一つである。また、職員間での意見交換が活発で、介護記録の付け方を変更して、利用者と接する時間を増 やすなど、職員の工夫が随所に見られる。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成24年7月25日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えていく (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、認知症介護に当たっている。	基本理念の「認知症高齢者がこれまで過ごしてきた生活や人生の継続性を支えるケア、本人の主体性・可能性を重視するケア」を目指し、利用者の家での暮らしに近づけようと、食事時間など、さまざまな面を改善中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出掛けたとき、挨拶をすることを心掛けている。	地域住民のボランティアを受け入れたり、「生き生きサロン」という地域の集いを職員が手伝ったり、町内のごみ拾いに参加したりと、近隣とのつながりを深めている。散歩や買い物で近所の人と会えば挨拶を交わし、地域に溶け込もうと努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に貢献できておらず、今後の課題である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告、地域での活動などについて意見を聞いている。 会議のメンバーを中心としたボランティアの受け入れを行っている。 近隣のグループホームに会議に参加していたとき、情報交換をしている。	運営推進会議を通じて、ボランティアとのつながりができたり、地域行事や集いへ参加できるようになった。災害時の対策を地域の人々と話し合える点も効果大きい。近隣のグループホームどうしで会議に参加し合い、交流も図れている。毎回参加する家族もいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいている。	市との接点は、届け出や運営上の問い合わせ程度にとどまっているが、今後は市の出前講座を活用したいと考えている。地域包括支援センターは毎回、運営推進会議に参加してくれ、利用者受け入れの照会等もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開放している。 内部研修を行い、職員に周知徹底している。また事故につながらないようにその時々で話し合いを持っている。	身体拘束は見受けられない。玄関は開錠・開放され、外に出たい利用者には職員が付き添っている。身体拘束防止の研修は3日に分けて行い、全職員への浸透を徹底している。言葉づかいも「ちょっと待って」から「待っていただけますか」と疑問文に変えて、利用者に判断を委ねられるよう、職員は気遣っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開き、理解、徹底するよう努めている。 言葉遣いに乱れがみられる時は、職員同士で声を掛け合って、直すよう気を付けている。		

グループホーム星の子

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事例もなく、知らないスタッフもいるので、研修を行い、理解できるようにしていく必要を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方に疑問などを尋ねながら、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。 来訪時、直接お聞きしている。	家族の来訪時に要望等を聞いている。利用者、家族の意見は申し送りノートや口頭で職員に伝えている。運営推進会議では家族と活発に意見交換をしている。目立った苦情はないが、家族が不安に思うことは、管理者が面談し解決を図っている。	家族からの意見や要望の全職員への周知徹底を今以上の期待したい。その後の経過や顛末を家族へ報告して安心してもらい、また記録して、今後役に立てられるよう、期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や意見交換ノートで日々の疑問について相談し、自由に意見や提案が聞けるよう工夫をしている。	管理者は「何かない？」という漠然とした聞き方ではなく、職員が答えやすい問いかけを意識し、意見を引き出している。利用者と接する時間を増やすための記録の簡略化、外出しやすい仕組み、菜園作りなど、職員の意見を受けた改善が、数多く実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の個性を生かしたレベルアップを意識し、働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を月1回行っている。 外部研修は力量に応じ、積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	倉敷市介護保険事業者等連絡協議会に加入し、研修に参加できるようにしている。 近隣のGHの運営推進会議に参加し、交流している。		

グループホーム星の子

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えを傾聴しているが、もう少し本音を探っていく必要がある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時など、本人の様子を伝えたり、家族の方の要望をお聞きしている。また家族間での考え方の違いにも耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療や理学療法士などと連携を取り、相談に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理など出来ることは一緒に行うように心掛けているが、一部、経験の少ないスタッフが介護することに追われている傾向がみられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や広報誌などで、ご本人の事について家族の方やスタッフとの関わりを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪があるときには自由に面会をしていただいている。 本人からの要望を十分に聞き出せずにいる。	来訪者には温かく接している。一部の利用者とは馴染みの図書館や医院へ同行するが、多くの場合、行きたい所や会いたい人を尋ねても、具体的な要望はほとんど出ない。各人の生活歴から馴染みを察し、問いかけ方を変えようとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、利用者同士の意思の疎通が取れるよう支援している。 利用者同士が穏やかに過ごせるよう座る場所を配慮している。		

グループホーム星の子

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来ていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動を観察し、意見を傾聴しながら、探り出している。 職員間で会議などを通じて情報を共有できるような意見のやり取りをしている。	飲み物や入浴時間など、利用者が答えやすいように選択肢を提示して意思を聞き出している。各人の好みに応じて、計算ドリル、ぬり絵、貼り絵、花の水やりや家事の手伝いなどを日々の生活に取り入れている。利用者が希望した美術館や店への外出も叶えられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	24時間シートで入居前の生活を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来そうなことや興味の持てることを勧めている。またその時の様子を伝え合い、職員で共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、意見交換し、プランに反映している。	担当者会議以外でも、職員間ではカンファレンスや「意見交換ノート」により、各人に合ったケアを随時検討しているが、本人や家族の意見があまり聞けていない。利用者ごとに作業や体操の記録を毎日つけ、この部分では計画実行の確認とモニタリングがよく連動している。	家族が積極的に要望や意見を出せるよう、情報提供方法や担当者会議での問い合わせ方法の工夫を期待したい。また介護記録は、介護計画を念頭に入れ、次に活かせるよう、期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア実践は記録できているが気づきや工夫の記録が少ない。考える力を育てるため、意見交換ノートを作り、気付いたことや疑問に思ったことを職員間で情報交換している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望をしっかりと聞き、日常生活の中に外出等を柔軟に取り入れている。		

グループホーム星の子

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望をお聞きし、地域資源を活用して外出援助を行っている。 傾聴ボランティアやお菓子作り等に地域の方が来てくださっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療の他、必要に応じて、医療との連携を図っている。	母体が医療法人で、敷地内に協力医院があり、日常から綿密な連携が取れている。そこに安心感を感じる家族も多く、ほとんどの利用者が、かかりつけ医を協力医に変更した。協力医以外では家族に受診を付き添ってもらったこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、多いときは毎日看護師が訪問し、利用者の心身の状態を相談、伝達している。必要なときには主治医と連絡を取り、受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事例はないが、病院との関係は大切に思う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に当事業所の方針を伝え、家族の意向を確認している。	最近、看取りに近い事例があった。利用者の異常を看護師が察知し、結果的に病院搬送したが、家族が見守る中で最期を迎えられた。終末期に本人か家族が事業所での看取りを希望し、医療機器の装着を必要としない状態であれば、その希望に沿えるよう、体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整備し、対応が出来るようにしている。ユニット会議や内部研修でスタッフに周知している。 慌てるスタッフもいると思われるので、応急手当や対応について研修を重ねる必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。 地震や水害時の対応が出来ておらず、早急にマニュアル作りが必要である。	利用者も一緒に避難訓練を行っているが、訓練に参加できなかった職員もいて、消火器の場所や消防署への通報手順は全員の熟知には至っていない。運営推進会議で災害時の食糧備蓄が話題に上がり、検討中である。	地震や水害時の対応マニュアルは、台風シーズンが来る前までに作成する予定で、その完成と活用を期待したい。また、消火器の位置や通報装置の使い方は、全職員がすぐに答えられるよう、期待したい。

グループホーム星の子

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時羞恥心に配慮している。一人一人に応じた声掛けを行うよう心掛けているが、忙しさや不穏者が重なった時など乱れやすいため、職員同士で注意し合っている。	職員は優しい表情で、ゆっくりと丁寧な口調で言葉をかけていた。トイレ誘導もさりげない。日頃から言葉遣いなどを管理者が指導し、職員どうしても気をつけている。利用者が苦手なことで恥をかかないよう、配慮する職員もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩に行くことや手作業をすることなど、本人の希望を聞いて行うようにしている。行動を観察したり、声掛けを工夫し、なるべく自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間は利用者のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や服選びなど希望をお聞きしている。判断の難しい方は、こちらで判断させていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、後片付けなど出来ることは一緒に行っている。 月1回は自由献立の日を持ち、利用者の希望を聞き、献立を決めている。	食事の取り分けやテーブル拭きを楽しそうにする利用者がいた。おいしく楽しく食べてもらえることを第一に考え、雑煮なども家族の了解を得て出している。ミキサー食でも食材別にかけて、彩りを楽しめるように配慮している。食事は利用者からも家族からも好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態や嗜好に対応している。 水分摂取が少ない方は摂取量を記録し、把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。出来ることはしていただき、出来ないことを援助している。		

グループホーム星の子

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を記録し、排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行っている。おむつが必要なかを話し合い、布パンツに移行できるような働きかけを行っている。	おむつの使用は1人に留まり、紙パンツから布パンツに移行できた人もいる。各人に応じたトイレ誘導や言葉がけに努めている。尿とりパッドは尿意便意を感じにくくすると考え、できる限り使用を控えるよう努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	担当者会議で原因を話し合い、その方に合わせた飲食物の工夫や運動等、働きかけ方について話し合っている。 個々に合わせ下剤の調節を行っている。オリゴ糖を使用している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否があるときは無理に行っていない。 入浴を希望される方の回数や時間を検討している。	シャワー浴も含め、週3回以上入浴できるようにしている。利用者ごとに曜日はほぼ決めているが、順番や曜日変更には柔軟に対応している。入浴時は利用者の話の聞き相手となり、話を盛り上げ、楽しんでもらう。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、眠気が強い方は自室で休んでいただいている。 就寝時間は決めず、眠くなったら休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の情報書を綴じ、職員がいつでも見られるようにしている。 薬の変更時の変化について医療関係者に情報提供し、調整して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活を聞き、趣味や嗜好に合わせた援助を行っている。出来ることを提案し、役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はあまり出来ていないが本人の希望を聞きながら、外出援助を進めている。野菜や花を植え、外に関心が向くよう環境を整えている。	直近のテーマは「外に出よう」で、例えば、広告を見てほしくなったものがあれば、車でちょっと買い物に行こう、ができるよう計画中である。近隣の散歩はもとより、花壇の水やりや菜園の様子見など、敷地内でも外の空気を味わえるようにしている。	

グループホーム星の子

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため、お金の所持はしていない。 外出時、自由に使えるように家族と話し合い、たてかえでつかえる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感が感じられず、少し殺風景に思える。	細かな部分まで掃除が行き届き、整理整頓されている。切り絵や貼り絵の作品は場所を決めて貼っている。リビングはすっきりしている。家具の角には緩衝スポンジを貼るなど、安全面でも多くの配慮が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方と肩を並べて会話できたり、一人で落ち着けるようソファの配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に家具など持ち込まれている。 ご家族の写真や馴染みの物を持って来ていただくよう働きかけている。	各自が馴染みのいすやテーブル、仏壇を持ち込み、作品や置物を飾り、自分にとって居心地良い空間を実現している。職員は利用者の思いを優先しつつも、居室の清潔さを保てるよう、常に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアに「便所」の張り紙をし、迷わない工夫をしている。 建物内は比較的安全だが、洗濯干し場の段差があり、洗濯干しをしていただくときは職員と一緒にしなければならない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	職員に伝え、理念を共有し、介護に当たっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を開催し、回を重ねて、地域と近親感を深めている。 傾聴ボランティア、手作りおやつ作りなど交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの受け入れをしている。 散歩で地域の方とあいさつや会話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に出席して下さっている方が、ボランティアに来てくださっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行っている。 玄関のドアを日中を開放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行っている。 利用者との関係は出来てきているが、慣れ合いになりがちのため、言葉の乱れが見られるときは、その都度注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方はいない。 今後のことも見据え、学ぶ機会を持ち、内部研修を行っていききたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、家族からの疑問点を聞き、理解していた だけのよう説明する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見を反映できるよう、玄関に意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議と担当者会議を開催している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行い、職員がどう働きたいと思っているか聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その時必要な内容に合わせて、内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のGHの運営推進会議に参加し、情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの訴えを傾聴して、納得できるよう、不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時要望を聞いている。入居後は本人の様子を安心して頂けるよう伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療や理学療法士と相談をし、本人にとって必要な援助を行っている。 他のサービスも対応していけるよう検討していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯など一緒に行い、出来ることがあることに喜びを感じてもらえる支援を行っている。 集団ではなく、個々で過ごしていくよう関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の様子を報告したり、家族からの要望を聞くようにしている。 面会時、担当から本人の様子を家族に伝え、関係を密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	敷地内にあるデイサービスに会いに行ったり、見学に行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないようにスタッフが働きかけ、配慮している。 利用者の声を代弁し、気持ちを伝えあうことで、入居者同士の良い関係が現在できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も様子を尋ねており、関係を繋いでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何かを決めるときには、必ず本人の意思を確認している。一人一人の要望は聞いているが、スタッフ同士が把握しきれていないので、共有できる方法を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	24時間シートで入居前の生活をお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人出来る範囲で作業をしてもらっている。話をする中でしたいことを見つけていくようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催して、意見を出し合って、プランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに利用者に対して実践して欲しいことを記入し、情報を伝えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所周辺の散歩は、本人の希望を聞きながら行っている。要望を聞きながら、ドライブに出かける事を進めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアやお菓子作りに地域の方が来てくださっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の訴えがあるときや体調不良時には、医師と連絡を取り、診察してもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少なくとも週1回訪問があり、日々の様子を報告、相談している。 普段と違う様子が見られたときは連絡し、診てもらい、主治医と連絡を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに行き、体調を伺い、退院時期の相談を行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、家族からの疑問点を聞き、理解していただけるよう説明する。事業所の考えや家族様の意向を聞いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは職員がいつでも見られる場所に置いてあり、事故発生時対応できるよう備えている。対応の仕方は内部研修で周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。 マニュアルが整備されていないので早急に体制を整えていく必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時、タオルを掛けるなどし、羞恥心に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どう思っているのか、何をしようとしているのか、言葉で伝えてもらうよう働きかけをしている。また、言葉で表現できない方には生活歴などを参考にしながら提案をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	見たいテレビ番組を尋ね、希望に合わせて見ていただいている。 起床時間、食事時間を本人のペース合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みの髪型を聞いたり、入浴時の服を決めていただく。 髭剃りが出来るよう準備をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けは利用者の好みに合うよう工夫をしている。 お茶の支度や洗い物など誘いかけてしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が少ない利用者には高カロリーゼリーを提供している。 嚥下に配慮し、刻みの大きさ、水分のトロミを個々に合わせている。 自由献立日を設け、スタッフがメニューを考えて作っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時、本人に合った援助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンが違うのでそれぞれに合わせ、トイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を個々に合わせ、使用している。 車いすの利用者様にも腹筋を使っていたり、立ち上がり運動をしていただいている。 オリゴ糖を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理矢理に入浴せず、拒否があるときは時間をずらして入ってもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、本人から要望があれば臥床し、休んでもらっている。 夜間は眠くなったら自室に戻り、休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに情報書を綴じ、職員がいつでも見られるようにしている。 変更時には変更、追加があるときにはノートに記録し、確認するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モップかけや洗濯干しなど、役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事でお花見に出掛けている。本人の希望に合わせて、散歩に出ている。 即時対応は出来ないが、気楽に外出できるよう、業務の見直しを行い、検討をしている。 ご家族が散髪や買い物、食事に連れて行って下さる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため、お金は所持していない。 必要に応じて、立替にてお金の使用ができるよう、ご家族から了解を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があれば、援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに植物、玄関に花を置いて、生活感や季節感が感じられるようにしている。 手作りの作品を置いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人がいる空間でゆっくりしたい方は、ソファで臥床していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやテレビなど、自分が使いやすい物を持ち込まれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアに「便所」の貼り紙をしている。 入居間もないときは、よく見えるところに大きな字で名前を書いたものを貼り、自室が判るようにしていた。		